

情報・システム研究機構経営協議会（平成29年度第3回）議事要旨

日 時：平成29年10月25日（水） 13：30～15：30

場 所：情報・システム研究機構会議室

出席者：五十嵐道子委員、國井秀子委員、篠崎一雄委員、椿広計委員、長谷川眞理子委員、
古谷研委員、安浦寛人委員、藤井良一委員（議長）、津田敏隆委員、樋口知之委員、
桂勲委員、小池良高委員、中村卓司委員、喜連川優委員

オブザーバー：鈴木監事、横山監事

陪席者：本部事務局・研究所事務担当者

議事に先立ち、議長より、新たに委員に就任した中村卓司委員の紹介があった。
また、本会の成立要件の確認があった。

議 事：

【審議事項】

（1）就業規則等の一部改正について

小池理事より、資料1-1、1-2に基づき説明があり、審議の結果、過半数労働者に意見照会の後、役員会にて審議することが了承された。

（2）組織運営規則等の一部改正について

小池理事より、資料2-1～2-3に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。

（3）第3期中期目標期間における施設・環境整備計画について

小池理事より、資料3に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。

（4）平成29年度補正予算（一般経費）について

小池理事より、資料4に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。

【報告事項】

（1）財務状況の解説について

小池理事より、資料5に基づき報告があった。

(2) 平成30年度概算要求状況の伝達について
小池理事より、資料6に基づき報告があった。

(3) 平成28事業年度業務実績に係る評価について
津田理事より、資料7-1～7-6に基づき報告があった。

<意見概要>

- 業務実績評価は、できて当たり前と思われるとなかなか高評価にはつながらない。評価結果を見ると、4機構で連携して取り組んだことに高い評価が付いている印象であるので、今後はその点をもっと上手に表現して伸ばしていくとよいのではないか。

(4) 大学への貢献可視化に関する調査報告について
津田理事より、資料8に基づき報告があった。

<意見概要>

- 大学に機構を知ってもらうためには、このような取組だけでなくクロスアポイントなどにより人事交流を進めるのが良いのではないか。
→ いきなりクロスアポイントメントを始めるのは難しいと考えている。まずは交流プログラムを通じて各大学と連携を進め、お互いの障壁を取り除き、円滑にクロスアポイントメントに移れるようにしたい。
- データサイエンティストの育成は難しく数も少ない。大学でも学部の設置等が進んでいるが、常勤のポストや若手の教員が循環できるようなネットワークが少ない。機構には是非リーダーシップを発揮して推進していただきたい。
→ 大学のみならず、産業界や行政からの期待も高まっており、限られたリソースの中では対応が難しくなっているため、予算の確保に努めたい。
- これだけ社会的ニーズが高まっているので、企業からの寄付を受けやすいのではないか。
→ 企業側も純粋な寄付金という形態では難しいが、共同研究等では多くの支援をいただいている。

(5) 研究所活動状況報告（統計数理研究所）
樋口所長より、資料9に基づき報告があった。

<意見概要>

- MOUを推進しているのは結構だが、特に海外の大学の中でもトップレベル

の大学と本気のジョイントディグリーを行う予定はあるか。

→ フットワークを活かして海外の大学に直接足を運ぶことによりかなりの効果が得られている。世界トップレベルとまではいかないが、マレーシアやチェコのトップ大学とは具体的な話がある。ただし、ジョイントディグリーは難しいので、ダブルディグリーやインターシップを実施する方が現実的だと考えている。

● 女性研究者が大幅に増えた要因は何か。また、女性研究者育成のパイプラインはあるのか。

→ 前機構長が中心となり、女性みの採用募集を行った。そして、女性教員の採用時にはスタートアップの予算支援を行っている。また、常日頃から優秀な女性研究者に直接アプローチをするなど、地道な努力をしている。

【自由討論】

● 法人評価において、高い評価を得るためには社会的なインパクトが必要。評価委員会に納得感を与えるためには、定量的に示せるものがない場合はメディアへ取り上げられることが必要。機構にはデータサイエンスというアピールポイントがあるので、積極的にアプローチしていくべき。

● 共同利用・共同研究拠点が増えているが、それらと機構との関係はどうか。

→ 共同利用・共同研究拠点との大学共同利用機関法人との関係において、目に見える問題点は多くないと考えているが、相互の利用状況を整理してニーズを探っていきたい。

● 共同利用・共同研究拠点等も含めて、データサイエンス等の基盤となる分野と専門性のある分野が縦軸と横軸で結ばれる体制があると望ましい。

特に大学では基盤となる分野が弱まっているので、機構が大学を支えていただきたい。

・機構長より、各研究所の視察について、委員の要望に応じて個別対応するとの案内があった。

(次回の経営協議会の日程について)

・次回の経営協議会は、1月26日(水)10:00から開催の予定。

以上

《配付資料》

※ ☆は iPad 及び机上に紙で配布

★は机上に紙でのみ配布

- ・ 前回議事要旨
- ・ 就業規則の改正事項 (案) 【資料 1 - 1】
- ・ 就業規則等 (新旧対照表) 【資料 1 - 2】
- ・ 情報・システム研究機構組織運営規則の一部改正について (案) 【資料 2 - 1】
- ・ 情報・システム研究機構組織運営規則 (新旧対照表) 【資料 2 - 2】
- ・ 情報・システム研究機構組織運営規則 (改正案) 【資料 2 - 3】
- ・ 第三期中期目標期間における施設・環境整備計画について 【資料 3】
- ・ 平成 29 年度補正予算 (一般経費) について 【資料 4】
- ・ 平成 28 年度 財務状況の解説 【資料 5】 ☆
- ・ 平成 30 年度国立大学法人運営費交付金概算要求内容の伝達について 【資料 6】
- ・ 平成 28 事業年度に係る業務の実績に関する評価ヒアリングについて 【資料 7 - 1】
- ・ 平成 28 事業年度に係る業務実績報告書に関するヒアリング資料 【資料 7 - 2】
- ・ 平成 28 事業年度に係る業務の実績に関する報告書 【資料 7 - 3】
- ・ 【参考資料】 平成 29 年度 COE 性ポンチ絵 【資料 7 - 4】
- ・ 【参考資料】 平成 29 年度基礎データ 【資料 7 - 5】
- ・ 平成 28 年度に係る業務の実績に関する評価結果 (原案) について 【資料 7 - 6】
- ・ 大学への貢献可視化に関する調査報告について 【資料 8】
- ・ 統計数理研究所の概要 【資料 9】
- ・ 情報・システム研究機構 メディア掲載記事一覧 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日) 【机上配布】 ★
- ・ 立川の研究者たち 国立極地研究所編 【机上配布】 ★